



# 飛騨っ子

令和2年12月15日発行 NO11  
飛騨県事務所 振興防災課 振興防災係  
家庭教育推進専門職：水口 悟  
TEL：0577-33-1111（内線235）  
E-mail：mizuguchi-satoru@pref.gifu.lg.jp



## コロナ禍でも、がんばっています！

### 1 飛騨市家庭教育学級の実践を紹介(11月 生涯学習課・子育て応援課)



10月中旬に飛騨市の家庭教育担当者から、『今年度は「飛騨地区家庭教育リーダー研修会」が中止となり、他地域の取組や家庭教育について学ぶ機会が失われてしまったことから、改めて家庭教育の大切さを知ってもらおうと家庭教育学級応援通信【飛騨っ子】』を公民館に掲示し、広く市民に知ってもらいたい』というお話を伺いました。

飛騨市では、11月に生涯学習推進会議子育てネットワーク部会が開催されることや家庭の日作品掲示(県事業)が行われることから、家庭教育と関連の深い事業を併せて周知することで効果的なPRを図りたいという願いをもってみえました。『「家庭教育」と付くと、子育ての落ち着いた人はもう関係ないと思われがちですが、市内の保育園や学校でどんな家庭教育学級が行われているのか興味をもっていただければ・・・』(担当者)

この実践は家庭教育の主体である保護者と家庭教育を支える地域皆さんの「家庭教育推進」に向けた裾野を広げる取組としてのすばらしさがあります。この掲示物は来年度のリーダー研修会に活用できるよう保管しておきたいというお話でした。(飛騨市民新聞 740号参照)

### 2 下呂市立宮田小学校(11/27 学校行事参加型 + 講演会型 自立心)

- 演題 「これからの時代をたくましく生き抜く子どもを育てる」～育てたい力や資質、そして自己肯定感～
- 講師 近藤 聡氏(NPO 法人 心をつなぐホースセラピーぐりんはあと 理事長など)



T さあ、手元のボードに書いてみましょう！

Q これからの時代を生き抜くために、わが子に身に付けたい力とは

Q 「自己肯定感」って何？と、わが子に聞かれたらどう答えますか

近藤先生のあたたかくて力強いお話に、引き込まれていきます。『子どもたちの力を信じて任せる・委ねる(選択権:自ら選ぶ)・決定権:自ら決める)』ことが大切…与え方一つで子どもの力を引き出せる…それは大人の役割です』そして、先生の豊かな経験から、今日の前の子どもたちにつけたい力を「自己肯定感」「非認知能力」の2点に絞り話されました。

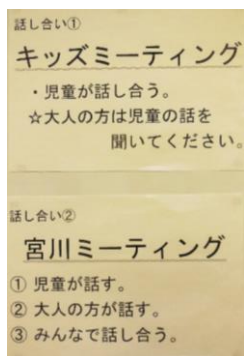
自己肯定感を育むには、特に“自分で決定できる”“自分にはできる”“自分は役立っている”という実感が持てる機会をつくるのが重要だと話されました。必要以上に口や手を出しすぎないことが基本です。

さらには、数値などでは測れない非認知能力(読み・書き・計算などの認知的能力に対して、数値化しにくい能力のこと(自立力、自律力など主体性・協働性・共生力など社会性))を育むことの大切さを話されました。今日、一流企業が求めている力も、やはり非認知能力であるコミュニケーション能力や協調性だそうです。数値で測れ

る力と同時に数値では測り得ない‘わが子のよさ(力)’にもっと目を向ける必要があります。講演会のまとめに「これからは小言を言わないように努めたい」と、ある保護者の方が話されました。簡単にはできなくとも、心にしていれば必ずできます。よく話し笑いのある宮田小学校保護者皆さんの人あたかな人間関係が印象的でした。

最後に、近藤先生は、『コロナ禍、大人から子どもたちへのメッセージとして「できることを探す努力する大人・小さなことから実行する大人でありたい』と締めくくられました。

### 3 飛騨市立宮川小学校(11/28 学校行事参加型+体験活動参加型 思いやり)



○テーマ 「思いやり」(全校道徳 ひびきあい集会)

○参加者 全校児童, 保護者, 地域の方々

「初めての試みです」と校長先生が話してくださいました。小規模校のよさを活かし、親子はもちろんのこと世代を超えて地域が一体となって、よりよい生き方を考える授業が行われていること…すばらしい!…地域の子どもと家庭を育み支え合う強い地域コミュニティがあってこそその取組です。「地域とともにある学校づくり」と「学校を核にしたまちづくり」を進める上で、家庭教育は欠かせないものとして位置づいています。

前半は、「キッズミーティング」として、低学年と高学年の2つのグループに分かれた子



どもたちが、友達関係に悩む主人公の気持ちを交流し合います。後半は、いよいよ保護者と地域の方々の出番です。「宮川ミーティング」として、それまで子どもたちの交流を見守っていた皆さんと一緒に意見を出し合います。ある保護者の意見に笑いが起き、少し緊張していた子どもたちにも笑顔が広がります。それを祖父母世代の方々ニコニコとして見守っています。

保護者の皆さんから、「悩んだ時には家族に相談していいんだよ」というメッセージが出され、学校教育と家庭教育を結ぶ貴重な試みであることも学ばせていただきました。全校道徳が終わると、親子で「フラワーアレンジメント」に挑戦されました。宮川小学校家族の皆さんが、あたたかな Xmas を迎えることは間違いありません。

### 4 高山市昭和児童センター (体験活動参加型 11/26 思いやり)



○対象: 来年度就園する親子 ○内容: 親子でお茶碗づくり②(絵付け)

○講師: お茶碗クラブの皆さん

高山市昭和児童センターでは、ぽっぱ広場~就園時コース~として、年間8回の親子行事を開催しています。12月には、「春からの給食 Q & A 講師: 子育て支援課 栄養士」や2月には、「幼稚園・保育園ってどんなところ? 講師: 子育て支援課 保育士」等々が計画されています。



今回は、祖父母世代にあたる市内の‘お茶碗クラブ’の皆さんによるお茶碗づくりの2回目です。前回作成したお茶碗に、色をつけていきます。筆を持って、絵の具をつけて、お茶碗に描いて…。祖父母世代のクラブの方々が、わが孫のようにして親子のふれあいを支え、一緒になって来年度の入園を待ち望んでいます。コロナ禍、例え短時間でも親子が安全安心に外出し、伸び伸びと活動できる時間は重要です。





### 家庭教育応援通信「飛驒っ子」展示

#### 市内の取り組みを紹介

飛驒県事務所が発行する家庭教育応援通信「飛驒っ子」のバックナンバーが古川町若宮の古川町公民館で展示されている。写真。三十日まで。

普段は保育園や小学校の関係者に配布されるものを公民館に掲示し、子育てや教育に関わる多くの市民に広く知ってもらい、今後の生活や取り組みに活かしてもらおうというもの。

令和元年度に市内の保育園や小中学校の取り組んだ活動などが紹介されている。



おける安全確認手段体験会・公衆電話教室」。災害時に家族間の安全を確認し合うために、スマホを活用する方法や、子どもにとっては馴染みが薄いと

思われる公衆電話の使用方法を知り、緊急時に使えるようにする事を目的に企画された。家族で話題にするきっかけになったという。

また、昨年十二月に、motooひょうご事務局長の栗木剛さんを招いた飛驒市の乳幼児・幼児学級合同講演会、楽しい子育て応援します！

「家庭教育」と付くと、子育ての落ち着いた人はもう関係ないと思われがちですが、市内の保育園や学校でどんな家庭教育学級が行われているのか、興味を持っていただければと教育委員会生涯学習課の出嶋秀章さん。「県が毎年開催するリーダー研修会に教職員や保護者会の方が出席し、そこで出された率直な意見もまとめられています。」

「家庭教育」と付くと、子育ての落ち着いた人はもう関係ないと思われがちですが、市内の保育園や学校でどんな家庭教育学級が行われているのか、興味を持っていただければと教育委員会生涯学習課の出嶋秀章さん。「県が毎年開催するリーダー研修会に教職員や保護者会の方が出席し、そこで出された率直な意見もまとめられています。」

1月は、「家庭の日」普及実践強調月間です!

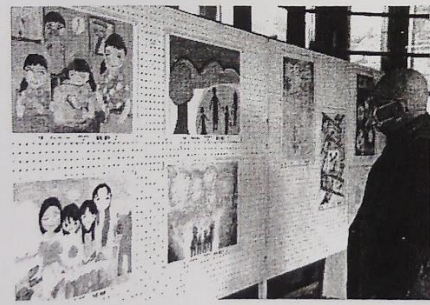
年末年始は家族ぐるみで、コロナ感染症予防に努めましょう!

皆様にとって希望にあふれた一年がスタートすることを願っています!

### 「家庭の日」啓発

#### 図画・ポスター 作品展

県は「明るく豊かな家庭づくり」を目的に、毎年、県内の小中学生から「家庭の日」をテーマにした図画やポスターを募集している。今年度は、古川町若宮の古川町公民館で十六日まで開催される。



「た、だいま、おかえり」のコピーに玄関に揃えた家族の靴を描いた作品や家族の思い出をフィルムに描いた作品、家族でパーベキューや流しそうめんを楽しんでいる笑顔一杯の図画などを、訪れた人は

「上手や」などと感心して見ていた。写真。

